

授業科目名・形態	看護実践総合演習 演習	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	黒澤 繭子 他	実務経験の有無	有	開講期	4年後期

【授業の主題】

これまでの看護技術習得状況を評価し、対象の治療環境に適した看護技術を提供できるよう、確かな看護技術を実践する。

【到達目標】

看護技術演習や臨地実習で学んだことを踏まえ、安全で安楽な看護技術を習得する。
臨床での看護技術がイメージできる。

【授業計画・内容】

担当教員がそれぞれの項目を担当し、演習を実施する。

- ① 無菌操作、創傷処置
- ② 採血法
- ③ 膀胱留置カテーテル法
- ④ フィジカルアセスメント
- ⑤ 点滴静脈内注射、留置針
- ⑥ 酸素吸入療法、吸引法
- ⑦ 夜間急変時の対応
- ⑧ 技術チェックとまとめ、課題レポート作成

小グループ編成、それぞれの項目の演習を学生が主体となって実施する。

*この演習を実施するにあたり、事前にオリエンテーション、演習項目ごとの調べ学習や練習、ビデオ学習、グループ演習の練習などを課す。

【授業実施方法】

集中演習

【授業準備】

1年次から4年次までの看護技術を復習してください。また、侵襲度の高い看護技術についてはモデルを用いて実施してもらいますので、知識面・技術面の予習・復習をしてください。

【主な関連する科目】

基礎看護学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学演習Ⅰ・Ⅱ、成人看護学Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメントなど

【教科書等】

ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）、成人看護技術（南江堂）など、これまで看護学全般の授業でのテキストおよび資料を十分に活用してください。

【成績評価方法】

演習状況（60%）、レポート等（40%）の総合評価

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

多くの経験を持った看護の教員が、根拠と経験知に基づいて技術のポイントやアセスメントについて指導・教授する。

【学生へのメッセージ】

この演習では、学生自らが自己の課題を明確にし、これまで学んできた看護技術を総合的な視点で捉えなおします。看護職者として業務を遂行していくための看護技術を習得するための機会です。これまでの看護技術を復習し、グループごとに協力し合いながら演習を進めてください。